

順位表

9/11現在
 基本 27試合消化時点

勝点、得失点差、得点、失点、
 岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

注：＊印は消化試合が数字分少ない

1	大宮	63p	+31	47	16	A●
2	今治	52p	+17	44	27	A○
3	富山	46p	+16	35	19	H△
4	沼津	43p	+10	44	34	H● A●
5	北九州	42p	+5	25	20	H●
6	金沢	41p	+3	42	39	A△
1*7	福島	39p	+11	38	27	H○
8	琉球	39p	-2	36	38	H△
9	FC大阪	38p	+6	28	22	A△
10	松本	38p	+4	38	34	A○ H●
11	相模原	37p	+3	26	23	A△
12	八戸	36p	+1	28	27	H● A●
13	岐阜	33p	-3	39	42	---
14	鳥取	31p	-14	30	44	A○ H●
15	長野	30p	-7	37	44	A●
1*16	讃岐	28p	-2	28	30	H○ A●
17	YS横浜	27p	-17	23	40	A○ H○
18	奈良	26p	-13	33	46	A● H△
19	宮崎	25p	-13	28	41	H● A○
20	岩手	17p	-36	18	54	H○

次回HomeGame

第30節 vs. ツエーゲン金沢

9/28(土) 15:00

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
 年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
 「おかえりなさい」が似合う
 アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
 JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
 休:月曜日

今日もここから
 串かつで一杯

煮込み珍道中
 串かつ

14:30 ~ 22:00 (L.O. 21:00)

※売り切れ次第、終了です

<定休日:日曜・祝日>

TEL. 058-252-1580

忠節橋
 通り

JR 岐阜駅
 北口より
 北西方面へ
 徒歩約 10分

★

アミカ

ドミー
 イン

JR
 岐阜駅

通算対戦成績	全7試合 (J3: 7試合) 岐阜2勝 / 相模原1勝 / 4分け Jリーグ岐阜ホーム戦: 2勝1分0敗		
直近の対戦結果	2024/04/06 相模原 1-1 岐阜 得点者: 藤岡浩介 J3 - 8節 @ ギオンズ		
ここ 3試合の 公式戦の 結果	岐阜	2024/09/08 J3 - 27節 @ ビカスタ 讃岐 4-0 岐阜	相模原
		2024/08/31 J3 - 26節 @ 長良川 岐阜 0-1 松本	
		2024/08/25 J3 - 25節 @ 長良川 岐阜 5-1 YS横浜	
		2024/09/07 J3 - 27節 @ ギオンズ 相模原 0-1 宮崎	
		2024/08/31 J3 - 26節 @ ギオンズ 相模原 1-1 長野	
		2024/08/24 J3 - 25節 @ プラスタ 八戸 2-1 相模原	

●5か月ぶりにホーム戦での勝利を手にしたものの、J3リーグ 2024 シーズンの後半戦は、第25節までで2勝1分3敗9得点9失点と、不調に苦しむFC岐阜。8/31(土)第26節・ホーム松本戦は、ホーム戦連勝を懸けた試合だったが、相手のロングスローでのセットプレーで失点。その後も一進一退の攻防が続き、惜しいシーンもあったが決められず、0-1で敗戦。そして9/8(日)第27節・アウェイ讃岐戦は、試合開始すぐに中央突破されて先制点を許す。岐阜もまずは同点にするべく攻勢を掛けるが得点を奪うことができず、逆に後半30分以降に3失点してしまい0-4で敗戦。

この2試合で2連敗の結果、岐阜は13位と順位には変化がないが、6位 (= プレーオフ出場圏)・金沢との勝点差は6から8に開いてしまった。そして、2024シーズンのJ3は残り11試合。現時点での、6位・金沢の1試合あたり平均勝点は1.52で、最終節予想勝点は57.76。一方、岐阜の1試合あたり平均勝点は現時点で1.22。最終節で金沢を上回るためには、1試合あたり勝点2.25のペース、おおよそ3試合を2勝1分のペースで勝点を積み上げ続ける必要がある。非常に残念ながら、現実的な数字ではない。また逆に下位を見ると、19位・宮崎との勝点差は8と、少し差が縮まってきている。今季のJFLでは、おそらく優勝・準優勝の2チームともにJ3ライセンスを保有していることが想定される。これまでの傾向では、『残留ライン=試合数の勝点』と言われており、その観点からすれば岐阜はまだ安全圏内だと思われるが、このままズルズルと負け続けるのは望ましいことではない。なにより、昇格や降格が関係なくとも、最後まで目の前の1試合を戦い抜く姿勢、勝利を目指す姿勢は、プロスポーツである以上、当然に要求されるものだろう。チームを立て直して、今日の試合を最後まで必死に戦って勝利することで、そういった姿勢を僕ら岐阜サポーターにしっかりと見せて欲しい。さて、今節の対戦相手はSC相模原だ。2021年にJ3に降格し、J2復帰を目指すものの2年連続で18位(2022年は最下位)に。ただし、昨季はDeNAが経営権を取得して、戸田和幸監督体制初年度だったため、雌伏の1年と位置づけて今季の雄飛を狙っているものと思われた。そして実際に今季はシーズン序盤から上位にいたが、6/18(火)に9位になった時点で戸田監督を解任。後任には、YS横浜や長野を指揮したシュタルフ悠紀監督が就任した。新監督就任後の5試合では3勝2分5得点2失点と好調だったが、しかし直近5試合の成績は1分4敗4得点8失点で、現在の順位は11位。岐阜の直近5試合の成績が1勝4敗6得点11失点なので、岐阜と同様に不調に苦しんでいるチームと言える。つまり、お互いに、ここで勝利を掴み取りたい対戦相手と考えていることだろう。相模原との通算対戦成績は1勝4分2敗・7得点8失点。昨季のホーム戦・6/18(日)第14節は、試合終了間際の決勝点で2-1の勝利。直近の対戦である4/6(土)第8節アウェイ戦は、後半8分にCKのこぼれ球を#11藤岡浩介が押し込んで先制するが、追いつかれてしまい1-1のドロー。今節は岐阜の勝利で対戦成績をイーブンに戻したい。

先述したように相模原は不調に苦しんでおり、また得点を多く決めている選手もいない。監督も交代しているため、どのような布陣で臨んでくるか不透明なところがある。従って、要注意選手には#47岩上祐三を挙げる。出場した試合ではキッカーやロングスローをこなす、相模原の心臓と呼ぶべき選手だ。また個人的な想いではあるが、夏の移籍で柏から完全移籍した#11武藤雄樹にも注目したい。一方の岐阜では、相模原に在籍(2021~2022年)していた#5石田峻真と#40川上竜の活躍に期待したい。再び暗いトンネルに入った感のある岐阜。そんな状況だからこそ、下を向きがちな選手たちを鼓舞し、時には叱咤激励して前を向かせるための、僕らサポーターの拍手と声援が必要だ。岐阜の勝利を信じて最後まで声援を送り、選手たちの背中を最後まで後押ししよう。そして、試合終了の笛の後には勝利の歓喜をみんなで分かち合い、「HYPER CHANT」をホーム・長良川に響かせよう。(ささたく)

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

【第26節】岐阜0-1松本

●迷走台風の影響でスタジアム内外のありとあらゆるイベントが中止となり、まさにサッカーを見るため「だけ」になったこの試合。

試合はまあお互いの現在の立ち位置を象徴するような内容に終始してたかな。ただ松本には「ロングスロー」という武器があって、それを活かしたワンチャンスもキッチリ決めた。そこの差だけだったのではないだろうか。だからあんまり下を向かなくてもいいんじゃないかと思う。

岐阜もいい攻撃の形は作れていた場面はたくさんあったし、松本のDFラインが必ずしも安定してたわけじゃなかったから得点のチャンスはあったと思う。ただ松本のGK大内一生が再三好守備を見せていたし、岐阜のGK中山開帆も失点はしたものの、こちらも好守備を見せていた。あと松本の菊井悠介-浅川隼人のホットラインはやはり脅威だったね。残り試合も1/4近くになってきた。順位はともあれひと試合ひと試合大事に戦ってゆくのみ。(岐阜の誇り)

●日本中を混乱させて被害も与えた台風10号の影響で、ほぼすべてのイベントが中止となったけれど、開催された松本戦。まあ屋台村がちゃんと開いてくれてたのが救いでした(苦笑)。でも、同時刻に開催される予定だった名古屋-新潟戦は早々に開催中止が決まったのに対して、ウチが開催だったのは何故かしら？開催の可否はクラブじゃなくてJリーグが判断してるらしいけど、やっぱり相手チームの到着の可否がポイントなのかなあ……。まあ、代替日は水曜になるだろうから、過密日程になるよりは良いのかもかもしれないけれど。

さて試合は開始早々に岐阜がシュートを撃って攻撃への姿勢を見せるが、先制点を奪うまでには至らない。すると逆に、松本のロングスローで先制点を奪われてしまう。うーむ、町田が多用するから悪く思われがちだけど、チーム戦術のひとつとして、やっぱり多様なセットプレーは重要ですよええ。逆にウチの今季は誰もロングスローやらない(やれない?)けど、チーム戦術として放棄してるのかなあ……。 (溜息)。その後、岐阜は攻勢に出るけれど最後の精度が足りずに前半終了。後半になると、HTでの松本の守備固めが良かったのか、それともウチが『このまま焦らず続けよう』と、相手が崩れてくれるまでボール回しをするようになったのか、シュートにまで至る回数が激減。スタッツを見ると、岐阜のシュート数は前半7本で後半4本。もちろん数撃てばいいってものでもないけれど、またしても『攻撃の手詰まり感』が。パス交換で崩せないんだしたら、多少陣形が崩れても持ち上がるしかないと思うんだけど、チーム全体としては、そういった積極性は見られないまま、試合終了。試合の内容としては、おおむね互角だったんじゃないかと僕は思う。だけどホーム戦で、相手のセットプレー1発に沈んで反撃もそこそこという、なんとも後味の悪い負け方だった。そして今日の松本の出来だったら、勝ちたかったし、勝てる試合を落としたとも感じられた。毎年毎年、シーズンが後半になるにつれてチームが悪化していく(あるいは成長しないので相手に抜かれる)のをあらためて感じてしまい、僕は拍手で選手を迎えることができなかった。(ささたく)

●どっちに転んでもおかしくない試合は0-1での敗戦。今をときめく(というわけではないが)ロングスローという武器を持ってた分、向こうに勝利が転がり込んだ、かな？それから、「向こうには菊井くんがいたけど、ウチにはいなかった。」コトも要因なのでは？と思ったり、思わなかったり。あ、そういえば、あのコ、どうした？サンアルで大活躍してウチからも歓声浴びて、その結果、負けたのに敢闘賞もらってた6番のコ。彼が長良川に来たら「カントーショーくん！」と呼んで称えてあげようと思ってたのに。ベンチにもいなかったじゃん。臆したのかな？その分、戦意が下がったのかもしれないね(笑)。

ただ、『接戦』ではあったけど『惜敗』という感じもない。前半のままで後半も進めていければ、まだ、勝ち目もあったとは思うけど、逆に向こうの方が攻勢に出て、ウチが守勢に回らされた感は否めない。惜しむらくは開始早々の大吾のシュート。選択は悪くはないが、右でどフリーだった石田に出せていたら……とは思。あと、あいちゃんの切り返し。そのまま、シュートにいった方がよかつたのでは？と思った次第。それでも、選手の現場での直感も尊重したいし、ことに「シュートを打つ！」という意志、意識は常に持って欲しいんでね。この試合では実を結ばなかっただけの話だ。

これからも、勝ったり、負けたり、負けたり……の繰り返し。まあ、残留は出来るでしょ？と思ってるんだけど……。大丈夫だよ(ぐん、)

●台風の影響が不透明だったからか、屋台村の賑わいが控えめ(当社比)だったので、久しぶりに2,000円近く貢献しました。そして仲間との語らい。試合前に十分愉しかったです。試合は0-1で負けただけど、岐阜と松本、同じような戦力、同じようなチーム状態、同じような『雑』なサッカー。でも、ロングスローからという「決め手」を持っていた松本がほんの1枚だけ上手(うわて)だったかな。岐阜はYSCC戦のような「ロングボールどっかん行って来い」の時に先制できればよかつたんだけど、先制されると退かれてブロック作られちゃうからどっかん効果がなくなる。そうすると「つないで崩す」という、今年ずっとチャレンジしつつも結果が出ない道に進まざるを得なくなる。それでも惜しい崩しも惜しいシュートもあつたんで、あとは『勝ち負け』の問題。腹は立たなかった。

……というようなことをSNSに書いたところ、負けたチームのサポが悔しがるのを読んで悦びたい(らしい)松本サポ氏から「腹が立たないなら応援する資格がないのでは」との手厳しいコメントをいただきました。どうやら松本サポの世界では「応援は資格制」、負けたら腹を立てないとサポ資格剥奪のようです。それは別にいいんだけど、わざわざ相手サポにコメントつけるかね。一言で返すなら「そういうとこやぞ？」なんだけど、そんな窮屈な世界が愉しいってのなら、いいのか。ヨソのチーム(のサポ)のことだし。岐阜はいい意味で緩い(こんな『岐大通』みたいな紙も出せる)ので、助かっています。ありがとう。(吉田铸造)

【第27節】讃岐4-0岐阜

●岐阜よりも下位に低迷しているとはいえ、3連勝中と調子を上げている讃岐。要因は色々あるだろうけれど、夏の移籍で獲得した選手たちがフィットしているというのもあるだろう。それと、JFL首位・高知の優勝とJリーグ参入(=J3最下位は自動降格)が現実味を帯びてきているので、尻に火が点いた状態なのかもしれない。さて試合は、その3連勝の勢いそのままに、讃岐が積極的に仕掛ける。わずか前半5分に敵陣深くからのロングカウンターで中央をえぐられて崩され、PA手前でフリーにさせてミドルを撃たれて失点……。 (溜息)。やっぱりウチは、走ってくるサッカーに対して圧倒的に弱いというか、脆い。まるで、ジャンケンでチョキがグーに負けるかのように確実に。特に最近はサイド攻撃に偏っていて選手がライン際に集まっているから、中央のスペースが空いてしまう。そこから侵入されるのを防ぐために運動量のある選手を中央に置くべきだと僕は思うんだけど、守備よりも攻撃(というかパス能力)を重視した選手起用になっていて。でも、その選択がなかなか得点には結びつかず、逆に失点に繋がっている……と思うんだけどなあ(溜息)。日本代表みたいなサッカーって、もっと選手たちの個人技レベルが高くないと、やっぱり厳しい。1対1(デュエル)の場面でも、走る(ボールを運ぶ)相手に苦戦する。それでも岐阜にも何度かチャンスがあり、それを決めていたら試合は分からなかったかもしれない。でも岐阜にはゴールが生まれず、後半33分

に讃岐に2点目が入って、勝負が決まってしまった。足が止まったのか気持ちが切れたのか、岐阜の寄せがさらに緩くなり、さらに2失点。#10川西翔太に“恩返し弾”まで決められる始末。結局、岐阜は1点も返すことができずに完敗。引き上げてきた選手たちの、慥然と言うか呆然と言うか、自信を喪失したような表情が本当にいたたまれなかった。こんな状況では、何か思い切った策を採ることが必要なんじゃないかと僕は思う。特に現在のスタメンは半数近くがレンタル選手なので、もっとプロパーの若手選手を起用して経験を積ませるといった、“将来に期待が持てる”サッカーを見せてほしいと、切に願う。(ささたく)

●とにかく、「現地組の皆様、お疲れ様でした。気をつけてお帰りくださいませ。」としか言うことのない試合。早く終わってくれ。そう思ったのはいつ以来だろう？ ATの4分すら、ムダに思えて仕方なかった。

試合後に、思わず、JFLとの入れ替えについてのレギュレーションを調べちゃったさ。自動降格もある最下位にまでは落ちないと思う(思いたい。逆に、残り11試合で16点もある勝ち点差を逆転されるくらいなら、潔く降格した方がいい、とさえ思うよね)。10/20の直接対決。開催が北上と決まって遠征予定を入れたけど、状況によっては血生臭い試合になる可能性も出てきた。まあ、この試合に勝てば最下位にはならないと思ってるんだけどさ。入れ替え戦の可能性がある19位については予断を許さない……かもだ。

それにしても、心底寒かったよね、この試合。特に先制された場面。エクスキューズを言えば、やってはいけない、ムルくて軽いボールロストだったから対応が遅れたのもやむを得ないかも？とは思う。それでも、守備に戻って欲しい位置、ペナルティ・アーク付近にいたのはウチの選手ではなく相手の選手、それも2人。そりゃ、余裕を持って、狙いすましてシュートを打たれるだろうし、あろうことか、ソレが味方に当たって軌道が変わっちゃったら開帆クンにはノーチャンスだわね。ウチにも、守備についての約束事はあると思ってたんだが違うのかな？特に前半で替えられた選手は猛省してください。全然、試合に入れてなかった気がするよ？

それでも、なんとか、1点で前半を終えたんで、同点に追いつきさえすればワンチャン……、そう思ってた時間帯がありました。あの、コースケのシュートが決まっていたら……とは思う。2点差をつけられた時点で、この試合はジ・エンドだったね。ウチが2点を取れる雰囲気はなかった。そこからの2失点はオマケ。人数いても跳ね返せない。混乱してたんだろうなあ。辛かったよね。まあ、1点差でも10点差でも、逃した勝ち点は3だから。切り替えて、次に臨むしかない。まずは、目の試合に集中しよう。(ぐん、)

●スコアだけ知った状態だった時は深めに黄昏れたんだけど、DAZNで失点シーンを視たら黄昏は綺麗になくなって、そこに諦観の芽が出ていた。『ココロの焼畑農業』だ(笑)。おそらく、選手みんな、前泊した宿で供された讃岐うどんが旨過ぎてカラダもアタマもココロも重かったんでしょう。街を挙げての対策にやられてしまったんだ。そうだ、そう思うことにしよう！(笑)

さて、昨今おなじみとなった、天野暫定監督による試合後囲み取材の「次の試合があるから準備します」のリプレイ応答で改めて思ったの。実は『暫定』を希望しているのは天野氏の側なんじゃないか。こんなチームを指揮したくなんかないけど、組織人でもあるし、「やるひとがないから、命じられたから、仕方なく『暫定』でやっている」という主張なんじゃないか。なんか、経営破綻した会社の残務処理みたいな気もするけど、納得出来てしまう。

もしそうなら、来季のFC岐阜は指導陣から選手から、ホントにイチから作り直しだ。でも、その方がいい。いまのFC岐阜から来季に継承するモノなんて、『Jクラブ』という体制と一部の若手選手くらい。いまの岐阜はレンタルの選手でぞえぞえ言いながらまわしているだけなんだから。

今季も観客動員数はそんなに落ちていないけど、シーズンパスを買っているひとが「今年はお力ネ払っちゃってるし」で来ているパターン、おそらくそんなに少ないよ。せめて、そういう方々が「来年もシーズンパス買おうか」と思えるような残りシーズンにしてほしい。(吉田 Casting)

9/12 時点の J F L 順位表。

不振続きのFC岐阜だけど、J3残留は大丈夫でしょ？とか、「何言ってるんだテメエ目標はJ2昇格だプレーオフだおらあ」とかの見解もあるでしょうけど、知識として持っていて荷物にはならないので、スペースも空いていることすし。

1 高知	44p +19	★ J3ライセンス申請中
=====		
2 栃木C	34p +10 *1	★ J3ライセンス申請中

3 V大分	31p +2	■ J3ライセンス所持
4 三重	30p +5 *1	■ J3ライセンス所持
5 滋賀	29p +10	■ J3ライセンス所持
6 青森	29p +8	■ J3ライセンス所持
7 浦安	29p +6	
8 Honda	27p +4	

(注：*1は消化試合数が1少ない)

高知ユナイテッド(岐阜から和田侑樹がレンタル移籍中)がぶっちぎっています。観客動員数(ホーム15試合で有料入場者数3万人)がネックでしたが、『県』を挙げての広報活動が奏効し、先日のV大分戦では1万人超えの動員を達成。残りホーム5試合で9,000人弱なので、達成の可能性はかなり高い。ホーム・春野陸上の照明(照度)問題も、県が「補正予算つけます！」とまで言っていて、競馬で喩えると鮮やかに『かかっている』感じ(笑)。財務等の基準を満たせばライセンスが降ります。昨年度はライセンス申請後に辞退しているので、今年度は勝算アリということでしょう。成績・観客動員・ライセンス。この3つを満たせば来季からJ3。JFL優勝を果たせば『J3最下位はJFLに自動降格』。入替戦はありません。JFL2位の栃木シティ。JFL1年めのこども観客動員がネックでしたが、ホームで鈴鹿(三浦知良が在籍)との試合が残っているため、この試合をキャパの大きいカンセキ開催に変更。『カズブースト』ってヤツですね(笑)。財務は大丈夫なんじゃないかと思うので、おそらくライセンスは降りるでしょう。3~6位の4チームは今年のライセンス持ち。観客動員ではV大分と青森が厳しい状況、三重(岐阜から楠本羽翼と山内寛史がレンタル移籍中)と滋賀(岐阜から久保田和音が移籍)は集客ブーストをかければ射程圏内といったところ。成績・観客動員・ライセンス。この3つを満たしたところが2位になれば、J3の19位と入替戦です。

1~6位がライセンス所持か申請中。7位以下の勝ち点から考えると観客動員クリア+ライセンス持ちの2チームがJFLの上位でフィニッシュする可能性が高く、そうなるとJ3の最下位はJFLに自動降格、同19位はJFL2位との入替戦になります。

翻って現在のJ3。岩手はかなり厳しいポジションにいます。岐阜はこれまでの勝ち点貯金があるので最下位にまで落ちることは考えにくいですが、19位だと、どうでしょう。岐阜の現状を鑑みると、全面スルーで問題ない！とまでは言い切れないなあ、と。(編集人：吉田 Casting)